

高齢者慢性心不全 (HFrEF) に対する ダパグリフロジン 10mg 投与の臨床的 効果について

なが み はる ひこ 1) 田 ばら ひで き 1) さい とう ゆう へい 2)
長 見 晴 彦 1) 田 原 英 樹 1) 齋 藤 雄 平 2)
せ しも たつ ゆき 1) さ とう ひろし 1) こ だま わたる 1)
瀬 下 達 之 1) 佐 藤 博 1) 児 玉 渉 1)
あら がき まさ とし 1) ひろ せ まさ ひろ 1)
新 垣 昌 利 1) 廣 瀬 昌 博 1)

キーワード：高齢者慢性心不全(HFrEF)，DAPA，心筋エネルギー代謝

要 旨

高齢者心不全患者は潜在的腎機能低下による投与薬剤の血中濃度上昇により副作用が出やすい特徴があり、治療薬もこれまで様々な薬剤が使用されてきたが2019年糖尿病合併の有無とは無関係に SGLT2 阻害薬の一つであるダパグリフロジン10mg（以下 DAPA）が左室機能の低下した慢性心不全患者（HFrEF）の心不全イベントを抑制する事が国際レベルの大規模ランダム化比較試験（RCT）：DAPA-HF 試験¹⁾により初めて証明され、糖尿病と独立して DAPA が HFrEF 患者の心不全悪化及び心血管死イベントを抑制し心不全治療への新たな選択薬となり得た。今回、当院で経験した HFrEF 症例 5 例の臨床的検討を行うとともに、特に DAPA が極めて有効であった症例報告も含め文献的考察を加えて報告する。

はじめに

著者は 2 型糖尿病を合併する高齢者心不全患者に対しダパグリフロジン 5 mg の投与時に心不全の指標である血中 BNP 値が経時的に低下していく事象を過去に報告し²⁻³⁾、ダパグリフロジンが心機能に対して何らかのベネフィットを有している

事を報告した。SGLT2 阻害薬は腎近位尿細管に発現する SGLT2 を介し原尿からのグルコース再吸収を抑制し血中グルコース濃度を低下させる糖尿病治療薬として開発されたが、2 型糖尿病患者を対象にした心血管アウトカム試験である EMPA-REG OUTCOME 試験、CANVAS 試験、DECLARE-TIMI58 試験においては SGLT2 阻害薬であるエンパグリフロジン、カナグリフロジン、ダパグリフロジンそれぞれが一貫して心不全による入院リスクを低下させたと報じている⁴⁻⁶⁾。本稿では当院で経験した HFrEF 5 症例に対する

Haruhiko NAGAMI, et al.

1) 出雲徳洲会病院 総合診療科

2) 出雲徳洲会病院 心臓血管外科

連絡先：〒699-0631 島根県出雲市斐川町直江3964-1

出雲徳洲会病院 総合診療科